

医療ルネサンス

No.5779



大腸がんの転移

5 / 5

がん研有明病院消化器センター 下部消化管担当部長 上野雅資さん

Q&A



金沢大医学部卒。専門は消化器がん、大腸がんの外科治療。消化器がん手術の執刀数は約2500例。うち腹腔鏡による大腸がん手術は約800例に上る。

大腸がんの再発や転移の
治療について、がん研有明
病院消化器センター下部消
化管担当部長の上野雅資さ
んに聞きました。

—どのようなケースが
多いのですか。

「多いのは肝臓や肺への
転移です。特に肝転移は大
腸がんの患者の
5分の1に見つ
かります。脳や
骨への転移はほ

あきらめる必要はない

ので、7割切っても元に戻
ります。1回で転移をすべ
て取り切れない場合は、再
生を待つて複数回に分けて
手術を行うこともありま
す」

「また、同じ肝転移でも、
場所によっては切除が難し
いことがあります。化学
療法を行うことでがんが縮
小し、切除できるようにな
ることもよくあります」

「大腸がんの化学療法は
近年、分子標的薬など次々
と新しい薬が登場し、選択
肢が増えました。1990
年代は、化学療法でがんの
大きさが半分になる患者は
約2割程度でしたが、今で
は約8割に増えています」

「肝臓のような再生能力
はないので、すぐには切り
ません。大腸がんの肺転移
は増殖速度が比較的遅いの
で、経過観察か、化学療法

「重粒子線治療は、通常
の放射線治療よりも重たい
粒子をがんピンポイント
で当てるため、直腸周囲の
臓器への影響を最小限に抑
えて治療ができます」

「肝臓の再生能力は約70%は
手術が可能で、うち約60%
は完治しています。転移が
1個なら約80%は治りま
す。肝臓は再生能力がある

「一般的に、がんが転
移したり、再発したりすれ
ば治療がかなり難しいとい
うイメージがありますが、
大腸がんはどうですか。
「治療後の5年生存率は、